

発足 10 年 「日本で最も美しい村」連合は次の 10 年へ

NPO 法人「日本で最も美しい村」連合 資格委員 山田泰司

1. はじめに

NPO 法人「日本で最も美しい村」連合（以下、美しい村連合）は、2015 年 10 月で発足 10 年となりました。この活動は、素晴らしい地域資源を持ちながら過疎にある美しい町や村が、「日本で最も美しい村」を宣言することで、①自らの地域に誇りを持ち、将来にわたって美しい地域づくりを行うこと、②住民によるまちづくり活動を展開することで地域の活性化を図り、地域の自立を推進すること、③生活の営みにより作られてきた景観や環境を守りこれらを活用することで観光的付加価値を高め、地域の資源の保護と地域経済の発展に寄与することを目的としています。



2. 発足 10 年の活動

2005 年に 7 つの町村から運動が始まり、10 年を経て北海道から沖縄まで全国 60 の町村・地域団体の加盟に至りました。美しい村連合に加盟するには、入会時の審査だけでなく、概ね 5 年ごとの再審査を受けることが義務づけられています。この再審査は、「最も美しい村運動」発祥の地であるフランス協会ほか「世界で最も美しい村連合会」に加盟する各国協会も共通です。運動体として、各町村の取り組みを評価し、“最も”と言えるように活動を深化させるためです。



写真 美しい村連合に加盟する町村長たち

3. 発足 10 年の節目

発足 10 年を迎えた今夏 6 月 26 日～28 日、北海道上川郡美瑛町で、「日本で最も美しい村」連合の定期総会と「世界で最も美しい村連合会」総会を同時開催しました。日本連合の定期総会では、次の 10 年に向けて更なる活動の深化を図るべく理念の共有と今後の方向性を確認しました。特に、審査基準を大きく改定しました。続いて、戦略会議として町村長や地

域代表者たちが最も美しい村づくりを議論しました。6 グループに分かれ、「自立のためのむらづくり」をテーマに、連合が掲げる美しい村づくりの 3 つの戦略「住民の自主的参加」、「経済的自立」、「世襲財産」による各町村の取り組みを、事例を交えながら美しい村としてのビジョン・将来像と実践を議論しました。このほか、伝統芸能の披露として大鹿歌舞伎の公演を行いました。

一方、世界連合会の総会を、日本で開催したのは初めてとなります。正加盟のフランス協会、ベルギー協会、イタリア協会、日本連合のほか、準加盟のドイツ協会が出席しました。また学習講演会として、フランスの最も美しい村協会事務局長からは、フランスにおける審査基準の考え方や、来訪者に対する美しい村の環境整備・おもてなしの向上について提言を受け、ワロン（ベルギー）の最も美しい村協会事務局長からは、外国人から見た「日本で最も美しい村」連合の情報発信の課題と、今後重視すべきサービスについて提言を受けました。



4. 学習活動と広報活動の充実

いま「日本で最も美しい村」連合が、力を入れていることは学習活動と広報活動です。「最も美しい村運動」が目指す究極の姿は、「真・善・美」だと考えます。そこに至るには、個々の加盟町村が日々努力を積み重ねる必要があります。1982 年発足のフランス協会は 33 年の活動の中で、様々な試練を経てきたといいます。特に発足 10 年頃に大きな組織変革があったとのこと。日本の組織活動も、国際水準として「最も美しい村」と言われるような村づくりが必要だと考えます。このため今年も、フランスとドイツの美しい村を訪ねる海外研修を 10 月下旬に実施します。また、来訪者による目（評価）は、村人の美しい村磨きの意欲喚起に繋がります。活動を広く知って頂くという意味で、10 月初旬には 3 年ぶりに公式ガイドブック『日本で最も美しい村 2』（ハースト婦人画報社）を発売しました。日本の村々を最も美しくするには、都市計画や土木・建築技術は欠くべからざる要素です。是非、ガイドブックを携えて加盟 60 町村・地域団体を訪れ、ご指導・ご鞭撻を頂ければ幸いです。